

1. 地域環境保全基金の残高等

		金額 (単位:円)	備考
①	基金総額 (前年度末基金残高)	185,361,343	
	内訳	うち、国費相当額	92,680,671
		うち、地方負担相当額	92,680,672
		うち、負担附寄附金等	0
②	基金運用益	4,417	
③	その他収入	0	
④	負担附寄附金等	0	
⑤	返納額	0	
⑥	基金執行額 (処分額)	28,289,152	内訳は下表のとおり
⑦	基金残高	157,076,608	(=①+②+③+④-⑤-⑥)
	内訳	うち、国費相当額	78,538,304
		うち、地方負担相当額	78,538,304
		うち、負担附寄附金等	0

2. 保有割合

	次年度の基金類型	取崩型	金額 (単位:円)	備考
⑧	基金残高		157,076,608	
⑨	事業費 (次年度から終了年度までの見込額)		116,877,668	
⑩	保有割合		134.394%	= (⑧/⑨)

保有割合の算定根拠
 運用型：運用益見込額÷事業費 (次年度見込額)
 取崩型：基金残高÷事業費 (次年度から終了年度までの見込額)

3. 事業一覧

番号	事業名	事業費			備考	達成度	事業費 (次年度)	事業費 (終了まで)
		合計	一般財源等	基金充当額				
1	生物多様性戦略推進事業(1)生態系の場の維持事業	9,817,080	0	9,817,080		71%	10,115,000	40,460,000
2	生物多様性戦略推進事業(1)生態系の繋がりの強化事業	697,400	547,400	150,000		71%	185,000	740,000
3	環境人財育成事業(1)北九州市環境首都検定	10,313,779	540,247	9,773,532	運用益4,417	62%	6,704,417	26,817,668
4	環境先端技術・施策の見える化普及啓発事業	8,548,540	0	8,548,540		81%	9,990,000	39,960,000
5	ネイチャーポジティブ発信事業	0					5,000,000	8,900,000
6		0						
7		0						
8		0						
9		0						
10		0						
11		0						
12		0						
13		0						
14		0						
15		0						
合 計		29,376,799	1,087,647	28,289,152			31,994,417	116,877,668

4. 基金事業の目標に対する達成度

成果指標	環境活動に関する市民意識調査結果、検定受験者数	
成果実績	生物多様性戦略推進事業、環境人財育成事業 等	
目標値	①②市民意識調査結果における「自然環境の保全と自然のふれあいの推進」の項目順位(25位以上)、③環境首都検定受験者数(累計5万人超)、④市民意識調査結果における環境活動を常に実行している人の割合(60%以上)	
達成度	①②市民意識調査結果における「自然環境の保全と自然のふれあいの推進」の項目順位(71%)、③環境首都検定受験者数(62%)、④市民意識調査結果における環境活動を常に実行している人の割合(81%)	

71.33%

令和5年度 事業報告書

事業名	生物多様性戦略推進事業	新規・継続区分	継続
事項名	(1) 生態系の場の維持（旧：市民と自然のふれあい推進事業）	開始年度	平成27年度
担当部署	北九州市環境局グリーン成長推進部再生可能エネルギー導入推進課	終了年度	令和9年度

1. 目的及び目標（値）

【目的】
生物多様性や豊かな自然がもたらす恵みを持続的に活用した「自然と共生するまち」づくりの推進に不可欠となる、優れた環境人材の育成を図る。

【目標】
エコツアーの開催や冊子を使ったPRを通じて、市民の自然環境に対する関心を高め、自然への理解及び守り育む意識の形成を図る。

【目標値】
平成29年に実施した市民意識調査の結果では、本市が行っている施策や事業34項目の中で、「以前に比べてかなり良くなっている」と思われるものとして、「自然環境の保全と自然のふれあいの推進」は33位、平均スコア（※）は0.029であった。
これを踏まえ、「北九州市自然環境保全ネットワークの会」参加団体等が開催する自然環境保全活動等の広報啓発を継続して行い、令和9年度には25位以上、平均スコア0.045以上に高めることを目標とする。

○市民意識調査項目

本市が行っている施策や事業34項目の中で、「以前に比べてかなり良くなっている」と思われるもの（1位～3位を選択）

※平均スコア…1位3点、2位2点、3位1点を合計し、回答者数で割ったもの

2. 概要

環境調査等を実施し、本市の代表的な自然環境拠点である曽根干潟等の自然環境の特徴や現況を把握し、調査結果を活用した自然環境講座（エコツアー）を実施することにより、自然と触れ合う機会を創出・提供し、市民啓発をすすめる。
また、市民・NPO・企業・学識経験者などから構成された、多様な生態系を保全するための「北九州市自然環境ネットワークの会（以下「自然ネット」）」の活動促進、自然レポート2023の作成やエコライフステージへの参加などを実施し、自然環境保全に携わる団体の活動支援や活動紹介を行う。

3. 根拠法令等

北九州市環境基本条例、第2次北九州市生物多様性戦略（2015年度-2024年度）

4. 実施内容等

【事業内容】

- ①本市の代表的な自然環境拠点である曽根干潟等の適切な保全と活用のための環境調査の実施
 - ・ 曽根干潟環境調査（底質、底生動物）の実施
- ②豊かで多様な自然環境にふれあうことで、市民が自然を守り愛する気持ちを育むことのできる自然環境講座（エコツアー）の開催
 - ・ カプトガニ産卵観察ツアー（令和5年7月22日）の開催
- ③行政、自然ネット、NPO・団体、事業者における取組みを紹介する「自然レポート2023」の作成（電子データで配布）
 - ・ 自然ネット会員へ電子データで配布
 - ・ HPで公開
- ④「自然ネット」の活動促進のための業務
 - ・ 自然講演会（令和5年11月23日）の開催
 - ・ 「自然ネット」会員向け情報誌の発行（年3回 電子データで配布）
 - ・ メールマガジンの運営（年10回）
- ⑤環境シンポジウム「エコライフステージ2023」（令和5年11月11日～12日）における広報

【事業効果】

市民の自然環境保全、保護意識の浸透・向上、自然環境に精通した人材の育成

令和5年度 事業報告書

事業名	生物多様性戦略推進事業	新規・継続区分	継続
事項名	(1) 生態系の繋がりの強化 (旧：鳥がさえずる緑の回廊創成事業)	開始年度	平成27年度
担当部署	北九州市環境局グリーン成長推進部再生可能エネルギー導入推進課	終了年度	令和9年度

1. 目的及び目標 (値)

【目的】
生物多様性や豊かな自然がもたらす恵みを持続的に活用した「自然と共生するまち」づくりの推進に不可欠となる、優れた環境人材の育成を図る。

【目標】
処分場、工場などの産業用地として隔離されたイメージのある響灘地区を、緑の回廊づくり等による環境整備を通じて、産業と自然が調和した地区として再構築を図るとともに、市民と自然のふれあいの場として整備するもの。

【目標値】
平成29年に実施した市民意識調査の結果では、本市が行っている施策や事業34項目の中で、「以前に比べてかなり良くなっている」と思われるものとして、「自然環境の保全と自然のふれあいの推進」は33位、平均スコア(※)は0.029であった。

これを踏まえ、「鳥がさえずる緑の回廊植樹会」等の広報啓発を継続して行い、令和9年度には25位以上、平均スコア0.045以上に高めることを目標とする。

○市民意識調査項目

本市が行っている施策や事業34項目の中で、「以前に比べてかなり良くなっている」と思われるもの(1位～3位を選択)
※平均スコア…1位3点、2位2点、3位1点を合計し、回答者数で割ったもの

2. 概要

市民や企業の協力を得て、植栽や育苗を行い、石峰山から響灘安瀬緑地にかけて緑化を行い、緑の回廊を創生する。

3. 根拠法令等

北九州市環境基本条例、第2次北九州市生物多様性戦略(2015年度-2024年度)

4. 実施内容等

【事業内容】

緑の回廊づくり(植栽地管理)

- ・緑の回廊として植樹をした区域において、植樹後の植栽管理を適切に行うことにより、多様な生物の生息環境を整備するとともに、鳥類が飛来しやすい環境づくりを行った。

【事業効果】

市民と自然のふれあいの推進及び響灘から市街地へ向けてのシンボルロードの形成

令和5年度 事業報告書

事業名	環境人財育成事業	新規・継続区分	継続
事項名	(1) 北九州市環境首都検定	開始年度	平成27年度
担当部署	北九州市環境局総務政策部環境学習課	終了年度	令和9年度

1. 目的及び目標（値）

【目的】

環境首都の実現や地球温暖化対策の推進に不可欠となる、優れた環境人財の育成を図る。
市民一人ひとりが環境との関わりを理解し、より良い環境・地域づくりへの意識をもって行動を起こすことのできる環境人財を育むために「環境首都検定」を実施。
小学校受検の実施や幅広く広報することで、市民に対する「環境首都検定」の周知と継続した受検者数の拡大を目指す。

【目標値】

平成20年度から15年にわたり実施した「環境首都検定」の受検者数の推移は、過去5年間をみると平成30年度は4,520人、令和5年度は4,669人となっており、徐々に市民に浸透してきている。
今後も継続して市民の環境意識を高め、優れた環境人財を育成する活動として、令和9年度時点の累計受検者数が5万人（H30年の北九州市の人口約94.7万人の約5%）を超えることを目標値とし、単年度受検者数を毎年4,500人以上とする。

2. 概要

市民一人ひとりが環境との関わりを理解し、より良い環境・地域づくりへの意識をもって行動を起こすことのできる環境人財を育むため、「北九州市環境首都検定」を実施する。

3. 根拠法令等

北九州市環境基本条例

4. 実施内容等

【事業内容】

「北九州市環境基本計画」（平成29年11月改訂）の戦略プロジェクト並びに「北九州市地球温暖化対策実行計画・環境モデル都市行動計画」（平成28年8月策定）の取組の一つで、公式テキストの改定、検定問題・解答冊子作成、受検申込の受付や当日の会場運営、採点等、検定実施の一連業務を行った。

【事業効果】

①北九州市独自の環境分野の検定の実施により、環境意識のレベルアップや、環境に関心を持つ市民の裾野を広げた。
②本市の環境首都への取組における認知度を高めるとともに、エコライフの取組を身近に感じることができきっかけをつくった。

※令和5年度受検者数 4,669人

令和5年度 事業報告書

事業名	環境先端技術・施策の見える化普及啓発事業	新規・継続区分	継続
事項名	(1) 環境先端技術・施策の見える化普及啓発事業	開始年度	令和2年度
担当部署	北九州市環境局総務政策部環境学習課	終了年度	令和9年度

1. 目的及び目標（値）

<p>地球温暖化など地球規模での環境問題の解決には、一人ひとりがライフスタイルを見直し、市民・事業者・行政が一体となって環境保全活動を推進していくことが必要である。このため、マスコットキャラクター「ていたん&ブラックていたん」を活用し、ノーマイカーデーなどの地球温暖化対策への取組みやSDGsの実現など（主にSDG7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」やSDG13「気候変動に具体的な対策を」）、本市の環境先端施策について理解しやすいように説明し、市民の環境意識の啓発を行っている。</p> <p>令和元年度に実施した市民意識調査の結果では、各項目について「毎日の暮らしの中で、どのような環境活動を実行しているか」の問いに対し「常に実行」「時々実行」と回答した人の割合がどちらも50%以下だった。これを踏まえ、マスコットキャラクター「ていたん&ブラックていたん」による環境意識の広報啓発を継続して行い、「常に実行」の割合を令和9年度には60%以上に高めることを目標とする。</p> <p>○市民意識調査項目</p> <p>(1) 節電、省エネへの取組み 「常に実行」45.1%、「時々実行」47.5%</p> <p>(2) ごみの減量やリサイクルなど3Rの推進 「常に実行」47.1%、「時々実行」40.5%</p>
--

2. 概要

環境に関する先端技術の提供、環境局の取組み、地球温暖化防止対策など、本市の環境行政全般について分かりやすく紹介し、市民の環境意識の啓発を図るため、環境マスコットキャラクター「ていたん&ブラックていたん」を活用した啓発事業を行うもの。

3. 根拠法令等

北九州市環境基本条例

4. 実施内容等

<p>【事業内容】</p> <p>本市の環境マスコットキャラクターである「ていたん&ブラックていたん」をナビゲーターとして、ノーマイカーデーなどの地球温暖化対策への取組みやSDGsの実現などの環境先端技術をはじめとする情報全般を、市民にわかりやすくダイレクトに発信した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境啓発グッズの作成 ・訪問先：イベントや市内小学校（環境教育プログラム）（イベント：計21回訪問、市内幼稚園・保育園：27回訪問） <p>【事業効果】</p> <p>①積極的な環境情報の発信を通じて、市民の環境意識の啓発を行った。</p> <p>②環境情報を活用した持続可能なライフスタイルの実践や環境保全への取組、環境政策への参加等を推進した。</p>
--